



# NEWS

VOL.  
**156**  
2011・10月発行

## 高Ⅱ研修旅行 中国コース **現代中国を人として感じ、ヒトとして感じる**

7月23日(土)～29日(金)



内モンゴル  
ホルチン

内モンゴル・ホルチンでは、かつての遊牧生活の様式を観光資源とした独自の生活に触れました。モンゴル料理や観光用パオへの宿泊など初めてづくしの1日。大草原、地平線に沈む太陽、広く大きな空に瞬く星。自然の中で生きている「自分」を感じることができました。

ホルチン

バス/240分



瀋陽

飛行機/120分



上海

飛行機/100分

広島



上海

日々進化を遂げる町、上海。市内が一望できる上海環球中心(森ビル)の100階展望台や租界の風情が残る町並み、昼間は活気にあふれ夜は幻想的な景色が広がる上海市内を訪れました。また西川ゴム工業上海工場やひろしま産業振興機構国際ビジネス支援センターの上海事務所を訪問し、実際の仕事の様子や日々感じていることなど貴重な生の声を聞かせていただきました。

瀋陽

瀋陽市内にある二つの世界遺産、瀋陽故宮と北陵公園。かつては皇帝しか通れなかった道をゆっくりと歩きながら、歴史を感じました。瀋陽故宮では歴史的建築物の一つ一つに込められた意味を、北陵公園では皇帝のために人工的な川や丘が作られたことを知り、そのスケールに圧倒されました。

私は、見た目や噂、メディアなどに惑わされて勝手に判断してはいけないということを知り、もっと世界的な見方をしたいと思いました。実際に見たり経験したりすることは難しいことが多いので、情報が正しいかどうか見極められるようになります。 Ⅱ年1組 榎 真葉華

中国は「広い」と思いました。それは国土だけではなく人やものも含めてです。信じられない光景をいくつも見ました。でもそうなるにはいくつもの理由があります。これからは、表面的なことだけを考えるのではなく、なぜそうなるのかまで深く考えたいと思いました。 Ⅱ年1組 一瀬 大雅

世界に強い影響を与える中国の中で上海、瀋陽、内モンゴル、と様々な場所に行き、中国の生活習慣や常識に驚きました。そして、そこで生きる人々を見て、自分の生き方について考えることができ、自分の価値観が変わったように思います。 Ⅱ年5組 京極 千愛

### CONTENTS

●高Ⅱ研修旅行	1・2・3
●4年ニュージーランド語学研修	3
●2年ニュージーランド交換留学	4
●1年校外学習	4
●先輩からの声 [進学フォーラム]	5
●矢橋紀子先生に聞く	5
[東日本大震災にふれて]	
●文化祭Information	6
●TOPICS	6
●CLUB NEWS	6



アクティビティーがとても充実



バッキンガム宮殿にて



広島なぎさチーム圧勝!

歴史と伝統、豊かな自然がある国、イギリス。そのイギリスの南部にあるハーストカレッジに35名の生徒が約2週間滞在しました。様々な国の生徒たちとともに寮生活を送り、午前中にはネイティブスピーカーによる英語の授業を受け、午後からは各自が希望するアクティビティーに参加しました。また、ロンドンやオックスフォードなど5か所の観光地を訪問しました。文

化の違いを肌で感じながら、それぞれの考え方を受け入れる広い度量を養い、また英語はコミュニケーションとしてのツールであるということを体感しました。言いたいことが伝えられないというもどかしさを伴うことも多々あったようですが、各国にたくさんの友人を作ることができ、大変貴重な経験となりました。

最初は英語が聞き取りにくかったけれど、何とか理解しようとがんばった。聞かれたことに対して返事をしたり、自分の意見を言ったりするうちに、たとえ文法が正しくなくても、自分がしっかり伝えようとするれば、言いたいことは伝わるのだとわかった。アクティビティーに積極的に参加したことで、外国の人たちと仲良くなれてよかった。一緒に行った仲間とも楽しく過ごせた。色々な経験ができたし、今後の進路について考えることもできて、最高の一言に尽きる研修旅行だった。

Ⅱ年1組 中野 晃宏

普段日本にいと外国人と直接触れ合う機会はほとんどないけれど、この研修旅行では一緒に遊んだり、勉強したり、話をしたりして自分の英語力を試すことができた。上手く思いを伝えることができない時もあったので、これからさらに英語の学習を頑張ろうと思った。また、積極的ではなかった自分を変えることができ、とても貴重な経験となった。自分の殻にこもっているだけではせっかくのチャンスを逃すことになる。自分が積極的になれば、それだけ学ぶことも増えると感じた。

Ⅱ年3組 磯谷 真由

この研修旅行で初めて外国に行ったが、新しい発見の嵐だった。イギリスに着くまでにも空港や飛行機の中で、初めてのものを見たり体験したりした。到着してからはテレビでしか見たことのないような世界が目の前に広がっていて、何とも言いえない感動があった。異国の地、文化、街、人に触れたことも、とても嬉しかった。言葉が通じなくても友達になれること、国によって考え方に違いがあること、食文化の違いなど、様々な発見があった。日本の良さにも、他国にあって日本にないものにも気づくことができて、おもしろかった。

Ⅱ年3組 藤原 千晶



合板工場の見学



セパタクローで交流



簡易水道のパイプの設置

生徒9名がマレーシア・サラワク州を訪れました。クアラランプール、シブ、クチンの市内散策を通じ、2020年までに先進国入りを目指すマレーシアの熱気に触れ、また多様な宗教、民族、文化の織りなす社会に触れることで異文化との共生のあり方について考えを深めました。マレーシアの主要産業であるアブラヤシプランテーションや合板工場の見学を通じ、経済成長の裏側で進行する環境破壊や環境を犠牲にした製品がなければ成り立たない日本

の生活の実態を知ることができました。

先住民族イバンのロングハウスでの五日間の生活では、「生き方」の全く異なる人たちとの交流によって、それぞれの生徒は自らの「生き方」「考え方」を見つめ直すきっかけを得ていました。そのきっかけは、家族、命、コミュニケーションなど多岐にわたりますが、一人一人の生徒にとって自らの未来を切り開いていくための大切な気づきとなっていたようです。

「自立」というテーマについて、見て、感じて、調べた。調べていくうちに、「自立」という言い方は私が思っていたこととは合わない気がしてきた。来る前は、村人たちの生き方を「たくましく、自分一人の身体だけで生きていく力」だと思っていたが、ルマバンジン村の人々の暮らしを見てみると、周りの環境に合わせて人と助け合い生きているようだった。だから、あえて言うなら「土地に応じた人と助け合う生き方」だろうか。また、行く前に「自分は一人が好きだが…」と思っていたが、一人では生きていけない、人と一緒に助け合ってこそ、自分らしくいられると感じた。

Ⅱ年5組 川本 彩子

最初は言葉が通じなくて本当に困った。相手の言っていることも、自分の言いたいこともお互いに伝わらなくてもどかしかった。でも、不思議なことに、だんだん日を重ねるごとに、言葉ではないジェスチャーなどから相手の言いたいことが分かるようになったことが嬉しかったし、びっくりした。

Ⅱ年1組 東森 千晶

日本では飼い犬や飼い猫はいわゆるペットとしてかわいがられる存在だが、イバンで飼われている犬や猫は狩猟やネズミ駆除など実用的な目的があるうえで飼われていて、決してかわいがられる存在ではないという根本的なところから大きく違うということに、カルチャーショックを受けた。でも、イバンの人にとってそういった動物たちとの共存がなくてはならないという点では、かわいがられてはいなくても、動物たちが大切な存在として扱われているのだと思った。

Ⅱ年5組 岡村 奈央





釧路川にてカヌーツアーリング



トマトの収穫



収穫した小麦を乾燥機に入れます

北海道大自然体験コースは、カヌーとファームステイの2本柱で構成されています。

カヌー体験では、阿寒湖にて基本的な漕ぎ方を練習。インストラクターの方の丁寧なご指導により、最初は苦勞しながらも、夕方には軽快に漕ぐことができるようになりました。その後2日かけて釧路川を下りました。

ゆったりとした川の流れるに乗って、釧路湿原の雄大な自然を、五感を使って感じる事ができました。

ファームステイでは、受け入れてくださった農家で作物の収穫、仕分け、袋詰め、草むしりなどを体験。農家の方から農業への想いを聞くこともでき、大地とともに生きる生活を感じました。

「自然が生み出す力はすごい」

僕は、自然が生み出しているものはすごいと実感しました。カヌーで釧路川を下っているとき、たくさんの野生動物の声や姿に触れました。でもそれらが住んでいるのは自然(森)があってこそだと思います。人間もこの自然があるからこそ生きていられるのだと思っています。

Ⅱ年4組 石田 智紀

「自然と人」

今回の旅行ではカヌーやキャンプ、農業と、自然を体験することが目的でしたが、体験してみて、人は自然に助けられているのだと思いました。そして、自然の壮さ、美しさから、自分たちの小ささに驚きました。

Ⅱ年4組 濱本 拓実

「広い、でかい、うまい」

本当にすごい自然に出会えて驚いた。写真でしか見たことがない、きれいな風景を直接見ているのが信じられなかった。料理もおいしかった。僕は野菜が大嫌いなのに、ファームステイ先ではおいしく、たくさん食べることができた。ここに来なければ一生体験できないことばかりだった。

Ⅱ年3組 中村 洋輔

「人と自然のつながり」

北海道はとにかく“自然”という感じで、広島とは比較にならないくらいきれいだった。その自然の中で暮らしたり、過ごしたりしている人と関わって、そんな生き方もいいなと思った。特に、ファームステイでは、野菜を収穫してそれを食べたとき、今までで一番おいしかった。人と自然のかかわりはとても大切で素晴らしいことだと実感した。

Ⅱ年5組 清水 優太

4年ニュージーランド語学研修



高校訪問にて



大学での授業



お別れパーティーにて

生徒26名がワイカト大学での語学研修に参加しました。毎日9時から15時まで、大学が用意したカリキュラムにそって授業を受けました。交流のプランもあり、今年初めて実施されたセントピーターズスクール訪問では、短時間ではありましたが楽しい一時を過ごしました。また先住民であるマオリの集会所での子供達との交流も大変意義深い体験でした。休日を利用し

てのデイツアーも2回あり、楽しい観光旅行の気分も味わうことができました。またホームステイ先での生活は、生活習慣や文化の違いを知ることができ、なによりも生きた英語の重要なトレーニングとなりました。こうして多くのことを学んで日本に帰って来ることができました。

NZに来るまでと来てからの数日は、バスやホストファミリーのこと、生活や食事のことなど、心配でいっぱいでした。でも1週間でそんな心配やマイナスな気持ちは消えました。英語も聞き取れるようになったし、知らない単語があっても、状況から何となくわかるようになりました。ホストファミリーも私が話そうとしていたら待ってくれて言葉を補ってくれたのであまり困ることなく英会話ができました。日本に帰りたいと思ったこともあったし、良いことばかりというわけではなかったけれど、それも頑張って乗り越えてきた分、自分も成長したと思うし、振り返ると楽しかったなと思います。

4年2組 菱口 真美子

とても貴重な体験だったと思います。絶対に日本にいたら知らなかったこと(スポーツ、文化の違い、ドリアンの味も!)をたくさん知ることができました。違うことだけではなく同じこともたくさんあって、「あたりまえ」なんてないことに改めて気付かされました。全部が全部楽しい思い出ではなくて、会話についていけなかったり思っていることが伝えられなかったり、日本が恋しくなったりしたけれども、そんな体験も私を大きくしてくれたと思います。ホストファミリーは2つ目の家族みたいで、こんなふうに思える人達に出会えることはめったにないと思います。行く前に不安に思っていたことなんてどこかに吹き飛んで、本当に充実した毎日を送ることができました。

4年1組 山口 紗穂

## 2年ニュージーランド交換留学

7月31日(日)～8月16日(火)



別れ際に Brooke に「あなたのいた部屋はそのままにしておくから、いつか絶対に帰ってくるのよ」と言われ、とても嬉しかったです。私は本当に NZ に来て良かったと思っています。たとえ言葉のやりとりは十分にできなくても、心のやりとりは十分すぎる程できました。たくさんの良い人たちに囲まれ、本当に幸せだと思いました。

2年5組 緒方 佑奈



私はこの交換留学で、「もっと英語を学びたい!」と強く思いました。今回はまだ、伝えたくても英語では伝えられない事がたくさんありました。これからもっと頑張って勉強し、4年生の語学研修にも絶対チャレンジしようと思っています。色々なことを経験することができたと共に、今後の目標を決めることができた貴重な経験でした。

2年2組 岸 美礼



## 1年校外学習

7月25日(月)～27日(水) / 7月29日(金)～31日(日)



八千代キャンパスでは、普段見るものや聴く物がほとんどなく、逆に新しく見るもの、聴くもの、また、初めて触るもの、匂うものもありました。普段、星なんてほとんど見ることができないのに、そこではすごい数の星を見ることができ、銀河鉄道の夜の時間では初めて流れ星を見ました。普段、電車か車の音なのに、そこでは、昼はセミの声、夜はスズムシに似た声を聴くことができました。匂いで言えば、草や木の匂いを、人生の中で一番多く嗅いだと思います。一泊目は寝るときですら、木の匂いがプンプンしていました。触るものは、葉のようにつつるつるしているものもあれば、木のようにガッシリしているものもありました。味覚は、夜の晩餐会や、朝の朝食会などで体験でき、自分たちで上手にできて、とてもおいしかったです。

1年4組 眞木 優弥





## 先輩からの声【進学フォーラム】

9月3日(土)に実施予定だった卒業生による進学フォーラムは、台風接近による休校措置のため中止せざるを得なくなりました。

しかし、先輩方の話を楽しみにしていた人も多く、せっかくの機会なので、進学フォーラムの内容を原稿にしてもらえないかとお願いしたところ、「先輩たちのためになるなら」と快く引き受けてくれました。それぞれの先輩方からのメッセージをしっかりと受け取ってください。



世界中の言語にふれることができます  
(左から2番目・西尾さん)

東京外国語大学外国語学部  
ロシア・東欧課程ポランド語  
西尾 地平さん(2011年卒業)



「班」のみんなと宮島で

広島大学教育学部第四類  
人間生活系コース  
谷本 佳奈美さん(2011年卒業)



法医学の先生と研修先に

広島大学医学部医学科  
浦辺 朱鞠さん(2009年卒業)

大学生になって「批判する力」の重要性を実感しています。批判するという行為は、みんなが当たり前だと考えていることに待ったをかけることです。この批判の積み重ねによって多くの学問は発展してきました。知の基本と言っても過言ではないでしょう。

しかし、批判するには批判の根拠となるロジック、それを支える事実など、いくつかの条件が必要です。そこで、中学生、高校生のみなさんには、「なぜ」という訓練をしてほしいのです。特に、自分の行いに対して「なぜ」を投げかけてほしいと思います。なぜ自分は勉強しているのか、なぜ自分は親に反発するのか、なぜ自分は隣のあの子が気になるのか…。何事にも無批判な「いい子」にはなってほしくありません。

大学には成績より大切なものがあふれています。それらは自ら思考し、批判することなしには決して得られないものだと思います。僕も必死で、でも楽しく文献に向き合って頑張っているの、みなさんも楽しく頑張りましょう。

私は広島大学教育学部第四類人間生活系コースに通っています。主に衣食住について勉強し、家庭科の先生になるためのコースです。

まだサークルには入っていませんが、広島大学は学部ごとに学年を超えた「班」があるので、先輩との交流もあり、また友達もたくさんできます。

私が高校時代に心がけていたことは、とにかく自分のペースで勉強することでした。高I・IIの時は部活をしていたので、部活に熱を入れ、特別な勉強はしていませんでした。そのかわり、日頃の授業をしっかりと聞いて、宿題をちゃんとやる心がけました。

高IIIも変わらず日頃の授業を大切にしています。また、問題集は数をこなすのではなく、同じ問題集を何回も解くようにしました。特に心がけたことは、無理はせず自分の集中できる範囲でやることです。無理して夜更かししても頭に入らないし、次の日の授業にも響きます。受験期は周りが気になるかもしれませんが、自分のペースでがんばって勉強してください。

最後に、自分の思った結果がでないときもあると思います。けれどもあきらめず自分を信じてください。きっと良い結果ががえます。

私が広島大学を志望したのは、AO入試があったからです。高校生の時から広島大学医学部の講義を聴講していたこともあり、興味のある分野や入学後のビジョンを具体的にアピールできる試験方式は私にぴったりでした。先生方に小論文や面接の特訓をしていただきながら、最終合格が決まるまでは二次試験対策をしていました。特に弱点だった数IIIや英語は、最後まで気を抜かず取り組みました。

「苦手な」科目は多くありましたが、基礎からきちんと理解していくことで、「嫌いな」科目にはなりません。学ぶことを嫌いになるって、なんだか勿体ない気がします。疑問点は放っておかず、すぐに解決することが大切だと思います。

私は今、大学で法医学研究室に入っています。必修科目(脳神経、循環器など)の試験は大変ですが、時間を見つけては大好きな法医学を学び、新しい知識や経験が増えることに喜びを感じています。皆さんも、物事を理解する努力を怠らず、楽しさを見出しながら勉強してもらいたいと思います。

## 矢橋紀子先生(養護教諭)に聞く【東日本大震災にふれて】



海岸からかなり離れた所に未だある漁船

東日本大震災の被災地のひとつであり、幼い頃から好きだった地・福島県で、この夏、ほんの小さな手伝い・助っ人として、活動してきました。私の目を見た被災地の様子、私の心で感じたことを、少しお伝えできればと思います。

原発事故問題で騒がれる中、報道とは裏腹に、福島にも一見して(あくまでも一見して、ですが)穏やかな日々もあることは事実です。一方、からだどころがなじんだ、優しかった海沿いの景色は一変していました。今年も来年も、同じ表情の海が自分を迎えてくれると信じていたこの地で、多くの命が失われたのだと思う言葉がありません。

南相馬市・烏崎海岸では、津波で大破した家の瓦礫の上に、おもちゃの手押し車がぽつんと置かれていました。これで遊んだ子供、それを温かく見守る大人。おもちゃがこうして瓦礫の上に置かれることなど、去年の今頃は誰一人として想像していなかったはずでした。

「東日本大震災」。私達はいつ、大きな「一件の」出来事として言葉を使ってしまう。しかし本当は、20,000件に達するほどの大事件があったのです。「東日本大震災」というひとつの大きな出来事の中に、数字だけでは見えてこない、

想像をはるかに超えた悲しみがあり、失われた命は私達と同じようにかけがえない暮らしを生きていた、という証を目の前につきつけられた気がしました。

震災に関して流れる様々な情報は、どれも震災のほんの一部でしかないということも感じました。私の見てきた光景も、また同じです。私もつい寄せ集めの情報で、震災のことを理解したような勘違いをしてしまいがちです。しかし、誰にも見えない所でいつも誰かが苦しんでいる現実を、表には出てこなくともいつも誰かが懸命に生きようとしている現実を、忘れてはならないと思います。東北の人たちは、絶望と悲しみの中で、もう充分すぎるほどにがんばっています。

被災地から約1,000 km離れた広島に暮らす私達が、被災地の方のために直接できることは限られているかもしれませんが、被災地への思いや想像力をつなげつつ、いま目の前にあることに真摯に向き合うことは、必ずどこかで誰かにつながっていくと信じています。

目の前にいる誰かを傷つけている人が、遠くの被災地のことを思いやれるはずはありません。自分が向き合っていることをごまかし、適当にやり過ごす方法ばかり考える人には、知らない誰かのために真剣になることは難しいでしょう。趣味でも勉強でも、いま抱える悩みや苦しみに向き合うことでもいい。様々なことに真摯に向き合わなくては、と思った被災地訪問でした。



矢橋先生

# 文化祭 Information

今年の文化祭のテーマは『四重奏(カルテット)』です。このテーマは、1年1組の高橋 侑花さんのアイデアで、「生徒、先生、保護者、来場者でつくりあげるなぎさの文化祭を音楽に例え、力を合わせて良いものをつくっていこう」という想いが込められています。皆の力を集結し、楽しい音楽を奏でよう文化祭を作り上げていきましょう。

**1日目** **日時** 11月11日(金) **校内発表会**  
**場所** 本校体育館

**2日目** **日時** 11月13日(日) **一般公開**  
**場所** 本校校舎・体育館・グラウンド

## TOPICS

### 「第2回政策創造の甲子園」 主催:関西大学 後援:大阪商工会議所



宅見 佳奈 (Ⅲ-2)

〈商店街の活性化への提案〉  
**わたしのまちづくり**



岩田 皆子 (Ⅲ-3)

〈格差・公務員・税金・子育て・教育など〉  
**わたしの政治改革**

関西大学で論文を発表しました

### 第38回全国中学生テニス選手権大会 8月15日(月)～21日(日)

昨年度は悔しい思いをした中国予選で今年度は見事優勝(団体男子、個人戦男子ダブルス)し、全国大会への切符を手に入れました。全国大会は兵庫県で開催され、団体戦では、初戦で京都府の洛星中学校と対戦しましたが、健闘むなしく敗退。個人戦男子ダブルスでは、武久翔悟君・丸石拓海君ペアがベスト16とすばらしい結果を残してくれました。在校生、保護者の方々の応援に感謝し御礼申し上げます。



第38回全国中学生テニス選手権大会  
 広島なぎさ中学校(広島県)

## CLUB NEWS

### 高校陸上部

- 平成23年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技対校選手権大会  
 日時:平成23年8月3日(水)～7日(日)  
 成績:男子走り幅跳び 長谷川 貴大(Ⅲ-2) 第26位
- 第61回広島県高等学校対抗陸上競技選手権大会  
 日時:平成23年8月27日(土)・28日(日)  
 成績:男子総合 第6位
 

男子トラックの部	第5位
男子フィールドの部	第8位
男子100m	池内 雅貴(4-3) 第2位
	角山 巧(4-1) 第6位
男子200m	池内 雅貴 第1位
男子走幅跳	渡邊 浩陽(Ⅱ-1) 第2位
	長谷川 貴大 第3位
男子4×100mリレー	
	渡邊 浩陽・池内 雅貴・角山 巧・長谷川 貴大 第3位
- 第50回広島県高等学校新人陸上競技選手権大会  
 日時:平成23年9月17日(土)・18日(日)  
 成績:男子総合 第5位
 

男子トラック	第4位
男子走幅跳び	渡邊 浩陽 第4位
男子200m	池内 雅貴 第1位
	中国大会出場
角山 巧	第2位
	中国大会出場
男子100m	池内 雅貴 第1位
	中国大会出場
男子4×100mリレー	
	渡邊 浩陽・池内 雅貴
角山 巧・椎原 尚也(4-2)	第1位
	中国大会出場

### 高校硬式テニス部

- 平成23年度第64回広島県高等学校 テニス新人大会(個人戦)広島地区予選  
 日時:平成23年8月18日(木)・19日(金)  
 成績:男子ダブルス  
 青木 信介(Ⅱ-2)・村竹 匠(4-5) 県総体出場  
 男子シングルス  
 青木 信介 県総体出場  
 今津 寛知(4-3) 県総体出場  
 女子シングルス  
 岡野 愛子(4-3) 県総体出場  
 宮腰 佑希(4-1) 県総体出場
- 平成23年度第38回全国中学生テニス選手権大会 中国予選  
 日時:平成23年7月25日(月)～27日(水)  
 成績:男子団体戦 優勝 全国大会出場  
 男子個人戦ダブルス  
 武久 翔悟(3-2)・丸石 拓海(2-5) 優勝 全国大会出場
- 平成23年度第59回広島市中学校総合体育大会 テニスの部  
 日時:平成23年8月10日(水)・11日(木)  
 成績:男子団体戦 優勝  
 男子個人戦ダブルス  
 武久 翔悟・丸石 拓海 準優勝
- 平成23年度第38回全国中学生テニス選手権大会  
 日時:平成23年8月15日(月)～21日(日)  
 成績:男子団体戦  
 武久 翔悟・上田 悠太郎(3-5)  
 山崎 将(3-1)・岡田 森之介(3-2)  
 中村 俊文(3-2)・椿田 悠馬(3-3)  
 藤田 貴久(2-3)・丸石 拓海  
 竹野 光穂(1-1)・澤田 文弥(1-5)  
 【1回戦】なぎさ 1-4 洛星中学校(京都府)  
 男子ダブルス  
 武久 翔悟・丸石 拓海 ベスト16

### 中学柔道同好会

- 平成23年度広島市中学校柔道選手権大会  
 日時:平成23年6月25日(土)  
 成績:90kg超級 山手 敦史(3-6) 第3位 県大会出場
- 平成23年度第39回広島県中学校柔道選手権大会  
 日時:平成23年7月16日(土)  
 成績:90kg超級 山手 敦史 ベスト8

### 中学陸上部

- 第57回全日本中学校通信陸上競技広島県大会  
 日時:平成23年7月2日(土)・3日(日)  
 成績:3年男子100m 恵良 昂平(3-6) 第4位  
 共通男子4×100mリレー  
 平江 瑞基(3-1)・恵良 昂平  
 城本 将臣(3-4)・有田 竣哉(3-4) 第4位  
 2年女子100m 水谷 瑛美莉(2-4) 第3位
- 第38回広島県中学校陸上競技選手権大会  
 日時:平成23年7月16日(土)・17日(日)  
 成績:3年男子100m 恵良 昂平 第5位
- 第59回広島市中学校総合体育大会 陸上競技の部  
 日時:平成23年8月24日(水)・25日(木)  
 成績:高学年男子総合 第4位  
 高学年男子100m 恵良 昂平 第1位  
 高学年男子200m 恵良 昂平 第3位  
 高学年男子110mハードル 有田 竣哉 第2位  
 高学年男子4×100mリレー  
 平江 瑞基・恵良 昂平・城本 将臣・有田 竣哉 第1位  
 高学年女子100m 水谷 瑛美莉 第8位  
 高学年女子4×100mリレー  
 脇田 愛生(2-1)・水谷 瑛美莉  
 藤井 友花(2-5)・山田 桃(3-3) 第6位  
 1年男子1500m 林 英臣(1-1) 第3位  
 1年女子4×100mリレー  
 小西 七海(1-1)・丸山 奈々花(1-3)  
 汲地 玲実(1-2) 林 希英(1-2) 第7位